

登録コード	J6140200	開講年度	2026					
授業科目	環境法Ⅱ					担当教員	小林 寛	
英文授業名	Environmental Law Ⅱ					副担当		
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	木曜・2時限		対象学年	(20・23カリ対象科目) 法：2年
講義室	経法第3講義室			授業区分	講義	遠隔授業科目		
信大コンピテンシー 該当								
(1)授業の達成目標		授業で得られる「学位授与の方針」				⇔	【授業の達成目標】	
		経法20加 現代社会が抱える課題に対して，社会科学の専門性を軸足とする解決方法を提案し，自然科学と協働しながら課題解決に導く力を身につける。				⇔	・現代社会が抱える課題に対して，社会科学の専門性を軸足とする解決方法を提案し，自然科学と協働しながら環境問題の課題解決に導くために，環境法（主に各論）に関する基礎的な法概念や理論、判例について説明ができるようになる。	
		経法23加（2026改）・総合法律，経法23加・総合法律 法学の専門領域の基礎能力として，リーガルマインドを備え，現代社会の諸問題を法的に解決していく上で必要な法学体系の基礎専門知識を身につける。				⇔	・リーガルマインドを備え，現代社会の諸問題を法的に解決していく上で必要な環境法（主に各論）に関する基礎的な法概念や理論、判例について説明することができるようになる。	
		経法23加（2026改）・総合法律，経法23加・総合法律，経法20加・総合法律 環境問題や，企業や行政の組織内において，日々生起する諸問題について，理工学分野や経済学分野の思考方法にも一定の理解を持ち，総合的に解決していくことのできる能力を身につける。				⇔	・環境問題や企業及び行政の組織内で生じる問題について，環境法（主に各論）に関する知見を基礎に，理工学や経済学分野の思考方法をも踏まえた総合的な解決方法を提示し，その内容を説明することができるようになる。	
(2)授業で学べる「テーマ」	環境共生							
(3)全学横断特別教育プログラム	環境マインド実践人材養成コース							
(4)授業の概要	環境の保全を目的とする法制度または法領域の一群を環境法といいます。環境法Ⅱでは，環境法Ⅰにおける環境法の総論的理解を前提に，環境汚染の防止・対策，廃棄物処理・リサイクル，環境保護の費用負担，気候変動問題を含む地球環境問題などに関する個別の法制度の解説を行います。また，このような環境問題に関する具体的な紛争事例をとりあげて環境紛争がどのように解決されるべきなのかについても検討します。 以下のとおり講義計画を予定しますが，講義の進捗状況等によって，計画を変更する場合があります。							
(5)授業計画	第1回 イントロダクション 環境法Ⅰの復習と環境法Ⅱへの導入 第2回 環境法と自然共生社会①地域的な自然環境に着目 第3回 環境法と自然共生社会②生物種に着目 第4回 環境法と自然共生社会③エネルギー問題と自然環境の保護 第5回 廃棄物処理①（経緯，目的，廃棄物の定義・種類・分類等） 第6回 廃棄物処理②（廃棄物処理法の基本構造と今後の課題） 第7回 リサイクル①（容器包装リサイクル法等） 第8回 リサイクル②（家電リサイクル法、小型家電リサイクル法等），循環型社会の形成 第9回 中間試験＋環境保護の費用負担 第10回 気候変動問題①（国際的取組） 第11回 気候変動問題②（国内的取組），その他の地球環境問題 第12回 環境紛争処理①（民事訴訟（損害賠償請求）） 第13回 環境紛争処理②（民事訴訟（差止請求）） 第14回 環境紛争処理③（行政訴訟） 第15回 環境紛争処理④（公害紛争処理制度），総括 授業アンケート 第16回 定期試験							
(6)成績評価の方法	期末試験（70％），中間試験（20％），レスポンスペーパー（第3回目以降，原則として毎回実施）に対する回答を含む授業への積極的取組状況（10％）							
(7)成績評価の基準	授業で解説した基本的事項に関する問題に答えることができれば「水準にある」，説明問題に対する記述ができれば「やや上にある」，事例問題に対して論理一貫性のある解答ができれば「かなり上にある」，全ての問題に対して説得的な解答ができれば「卓越している」。							
(8)事前事後学習の内容	毎回の授業の終了時に次の授業内容の予定を述べるので教科書の該当箇所を読んだうえで授業に臨むこと，授業終了後は教科書の該当箇所および配布資料の読み込みを行うことが必要です。 授業の際に配布する場合があるレスポンスペーパーに授業終了時に講義担当者が発問する問いに対して回答して授業後に確認すること，授業終了時に課題を出す場合があるので，当該課題に対する作業を次回授業時までに行うことが必要です。							
(9)履修上の注意	毎回の授業に出席しノートをとること（配布資料の穴埋めなど），必要に応じて配布するレスポンスペーパーに回答すること，定期試験を受験することが必要です。 また，環境法Ⅱは環境法Ⅰにおける総論的理解を前提とする科目ですので，環境法Ⅰを前期のうちに履修しておくのが望ましいと思います。							
(10)質問,相談への対応	授業中および授業後に質問をお願いします。授業後は研究室にお越し下さい。来室の際にはメールで事前に来室日時をご相談ください。メールアドレスは，hkoba@shinshu-u.ac.jp です。							
【教科書】	大塚直『環境法Basic [第4版]』（有斐閣，2023年）							
【参考書】	大塚直『環境法 [第4版]』（有斐閣，2020年），北村喜宣『環境法 [第6版]』（弘文堂，2023年），交告尚史・白杵知史・前田陽一・黒川哲志『環境法入門 [第4版]』（有斐閣，2020年）							

【参考書】	，淡路剛久編集代表『環境法辞典』（有斐閣、2002年），大塚直・北村喜宣編『環境法判例百選〔第3版〕』（有斐閣、2018年）
-------	--